

香川の医療最前線

687



上腕から手にかけての病気が専門的に治療する手外科。外傷や神経障害、腱鞘炎などに對して手術だけでなく、リハビリテーションも含めた一体的な診療体制を整えようと、キナシ大林病院では4月に手外科診療センターを開設した。

狙いや主な疾患、治療法などについて、加地良雄同センター長に聞いた。
—手外科診療センターを立ち上げた。

手には、いろいろな形をした骨、それらをつなぎ合わせる靱帯、指を動かすための筋肉や腱のほか、神経や血管などがあり、この非常に複雑な構造を熟知していないと良質な治療はできない。こ

れまで培ってきた知見や技術を基に、より専門的な診療を行うため、開設した。

め、神経障害、腱鞘炎、変形性関節症が主な疾患。神経障害では内視鏡を用いた小切開手術に力を入れている。

—特徴は。

—具体的には。

手の病気がやけが

専門的な治療を提供

チームでリハビリ注力も

で、手術と同様に大切なのがリハビリ。センターでは、経験豊富な作業療法士と医師が力を合わせ、最良の診療を提供できよう努めている。

—疾患や治療法を。

骨折や神経損傷、腱の損傷といった外傷をはじめ

骨折や神経損傷、腱の損傷といった外傷をはじめ

■かじ・よしお 1994年香川医科大学（現香川大医学部）卒。香川大医学部整形外科准教授などを経て、今年4月から現職。医学博士。日本整形外科学会専門医、日本手外科学会専門医・指導医、日本リハビリテーション医学会専門医・指導医。滋賀県出身。56歳。

帯を切る手術を行う。これまでの手術では手首を4〜5センチほど開いていたが、内視鏡手術では約1センチの切開創2カ所だけで済む。

—傷跡は小さい。ほとんど目立たない上、約1週間で水仕事ができる。また、肘の内側にある尺骨神経の障害で

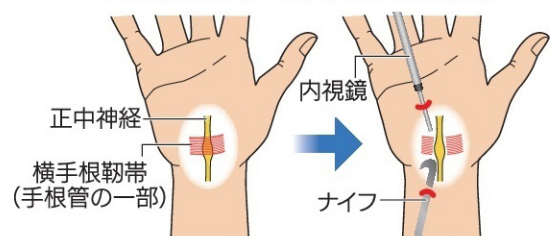
る屈筋腱が通る腱鞘に炎症が生じ、指に痛みや引っかかりが起きる疾患。

塗り薬や飲み薬、ステロイド剤の注射で改善しなければ、腱鞘を切開する。術後はリハビリが大事で、早ければ手術の翌日から始め、指の機能改善を目指す。このほか、指の変形性関節症は女性ホルモンの減少などが関係しており、初期の治療では湿布や飲み薬に加え、サプリメントの摂取も提案している。病状が進むと、人工関節に置換する手術などを行う。

—外傷については。

外傷などによって手や指の末梢神経が断裂、欠損した場合、断裂した

内視鏡を用いた手根管解放術



神経間の距離が4センチ以下だと人工神経（神経再生誘導チューブ）を用いた治療法を取り入れており、自家神経移植によって健全な神経を犠牲にすることが減っている。

—困っている人へのアドバイスを。

人間の行動に密接に関わる手の病気がやけがは、日常生活に大きな支障を来す。センターの目指すべき姿は手の症状で困っている人が安心してたどり着ける場所。不安や心配なことがあれば、気軽に相談してほしい。

■キナシ大林病院手外科診療センター

今年4月に開設し、医師2人、常勤作業療法士6人体制。診療日は水曜の午前と土曜の午後。受診は予約制。手術は週5〜6件行っている。

所在地：高松市鬼無町藤井435の1

電話：087(881)3631

<https://www.obayashihp.or.jp>